

東高同窓会報

発行所

千葉県立木更津東高等学校

同窓会本部事務局

〒292-0056

千葉県木更津市木更津2-2-45

同窓会創設百周年の節目に

会長 鹿島典子



同窓会は平成25年創設百周年を迎えました。その総会において関らずも羽山順子会長の後任として会長に就任いたしました。素より才学なく、経験も乏しくその器ではありません。百年の歴史に培われた伝統ある同窓会の舵取りをお受けすること、その任の重さに身の引き締まる思いであります。

さて、昨年12月には全日制・定時制合同の会員名簿が発刊されました。これは過去に例のない画期的な企画です。時代の流れと共に人々の価値観も変わり54年間続いた東京支部は惜しまれつつも解散し、定時制支部も昨年11月に余儀なく解散致しました。しかし、この名簿の発刊により同窓会の基盤は全・定共に揺るぎ無いものとなり、その活動や会員相互の交流は一層円滑に行われるようになるでしょう。

母校に目を転じれば、県立女子高は千葉女子高と木更津東高の2校のみです。誠に希少な存在です。その存在を大いに活かし、多くの女子学生の要望

に応え、在校生や卒業生が誇り得る女子高ならではの意義と特色を遺憾なく発揮して、母校、木更津東高が更に発展するよう切に願います。そして、同窓会としてもその発展に能う限り寄与してゆきたいと考えています。

同窓会会則の第1章第3条に、『本会は会員相互の親睦を篤くし、相携えてその教養を高め、併せて母校の発展を

女子高ルネッサンス

校長 青木清隆



平成14年度、いわゆる県立の女子高は、千葉女子、若葉看護、松戸、野田、佐倉東、佐

原女子、銚子、松尾、茂原、大多喜女子、御宿、安房南、木更津東の13校・187学級、生徒数は7000人を超えていました。それが翌年の佐原女子

高校の共学化を皮切りに共学化や統合により次々と姿を消し、現在では本校と千葉女子高の36学級、1400人あまりへと激減してしまいました。ところが、まさに絶滅寸前かと思われた公立女子高が、全国的には共学化の見送りなど減少に歯止めがかかる一方、その教育力にも注目が集まっています。理由の一つは教育基本法の改正(平成17年)で、それまでであった男女共学に関する規定が削除されたことです。

アメリカでも、平成14年に教育省が公立教育のガイドラインを改定して男女別学(女子校や男子校)を容認し、すでに500校以上の別学校が誕生し

助成するを目的とする」とあります。同窓会創設百周年の節目にあたり、会則にのっとり、母校に心を寄せ、同窓会の伝統を継承し、併せて同窓会が心の拠り所となるよう皆様のお声に耳を傾けて参りたいと存じます。

会員の皆様の尚一層のご理解とご協力、ご支援を心よりお願い申し上げます。して、ご挨拶といたします。

います。当時のスベリングス教育長官は「研究によって、男女別学が教育に効果をもたらす場合が存在することがわかってきた。地域社会に多様な選択肢を用意することが重要だ」と述べています。別学による教育上の効果が、国際調査や脳科学研究などにより明らかになってきたからです。

ちなみに日本の私立高校の3割以上は別学で、女子校は男子校の2倍半もあり、その多くが伝統ある進学校です。各校それぞれに建学の理念を守りつつも、女性の特質を生かしたリーダーの育成を目指しています。共生の時代と言われる21世紀は、女性的な優しさ、しなやかさが求められる時代です。

本校においても、これまでに培ってきた女子高ならではの良さを最大限に生かし、男女が共生し協力する男女共同参画社会にふさわしい自立した女性を育て送り出す使命があると考えます。同窓生の皆様には、引き続き創立から2世紀目にはいった母校への御支援・御協力をお願い申し上げます。

同窓会 創設百周年に寄せて

元会長 石川 富子(本29回)

千葉県立木更津東高等学校は、平成22年盛大な百周年記念式典を行いました。

今年には同窓会創設百周年を迎え、記念誌を発行されること、大変時機を得たことと嬉しく、関係者のご協力に感謝致します。「創立百周年史の同窓会の歩み」を拝見しました。

明治43年君津郡立木更津高等女学校として創立されて、僅か3年目の大正2年に同窓会は創立されました。当時の女子教育に寄せる期待の大きさが伝わります。

創立は第一次世界大戦の頃。以後激動の時代、女子教育も大きな影響を受け、学校も生徒、同窓会も多くの困難に直面しましたが、同窓会は常に学校・生徒に寄り添い支援してきました。又、同窓生自身も、自らを磨き親睦を深め結束し、母校の為ならぬを厭わないと云う真面目さや心意気を感じられます。

昭和33年東京支部誕生。36年同窓会長が学校長から同窓生に引き継がれ、

内藤津多氏が会長となり、同窓会は一層充実が計られることになりました。

56年には、同窓会の一層の充実、継続を思い、同窓会懇親会運営が学年当番制となりました。58年は私共29回生の当番でしたので、この頃は思い出深いこと許りです。当番学年は久しぶりの級友との交流を喜び協力し、見事な盛り上がりを見せ、現在の盛大な総会に繋がっています。

創立百周年の発行には、多くの同窓生が参画され、各分野を網羅し記録されました。その力量に感服し、同窓生として誇らしく思います。「同窓会の歩み」の行間から見える様々な時代模様、そこには母校に寄せる思い、真面目さ、温かさなど、誇るべき伝統があります。この歴史、伝統が未来永く続いてゆくことを心から祈念申し上げます。

同窓会に寄せて

前東京支部長 吉岡 珠江(高15回)

東高同窓会が誕生して百年。私達高15回生は50年前に卒業しました。在学中に校名が二高から東高になりましたが、私は女学校という呼び名に特別な思いを持っています。当時女学校で学ぶということとは恵まれた教育環境に身を置いていたということではないでしょうか。その女学生自身もかなりの自覚と自負を持っていたと思います。

母は女学校卒業後もずっと当時の友人と親しくしていました。家でも女学

校の友人のことがよく話題に上り、母の友人でありながら、私も今でも皆さんの顔と名前が思い出せます。

母は6人の級友と共に毎年の同窓会を楽しみにして、体調を崩すまで出席していました。新しい服でおしゃれをし、それを買い揃えるのが私の役目。同窓会とはそういう「ハレ」のものでした。

卒業して37年後に東京支部の当番幹事が回って来ました。前年に初めて東京支部総会に出席し、準備する側の立場で同窓会を体験しました。本番は従来通りのやり方を踏襲するのが精一杯で、その後10年程裏方に回り、私の同窓会とは随分違ったものでした。

当番幹事の時に、母の学年の前後2年位の方の返信葉書を入院中の母に見せました。母は名前を見るとすぐに思い出し、「やっぱり女学校を出た人は違うね。みんな立派な文を書いて、宇も上手だね。」と言いました。その一言に女学校を卒業した誇りを感じました。

母のアルバムを見ると、制服を着て、ぼつちやりとした7人の女学生が未来に向かってにこやかに笑っています。

同窓会百周年を 顧みて

元常任理事 貝原 靖子(定4回)

同窓会創設百周年、先ずお慶びを申し上げます。改めて百年史をひも解きました。始まりは郡立。女が本を読まなくても良いと言われた頃に、何人入

学されたでしょうか。

明治生れの母も卒業生なので、当時の女学校生活を聞いておけば良かったと思います。戦争で転校してきた姉は学徒動員でほとんど授業は無く、私も入学の年は農家へ労働奉仕でした。学校の裁縫室など畳の部屋は傷病兵のために使われ、教室が不足で第一国民学校の中山校舎の教室を使いました。疎開生徒の受入れも大きかったようですが、それでも編入できなかった友達がいたと聞いています。敗戦後は教科書もノートもなく、妹の時代になってから制服のモンペがスカートの戻り女学生らしくなりました。

私は木高女で学制改革による新制中学を卒業してから、二高となった定時制に入り直し、7年もお世話になりました。仕事の都合で遅刻欠席は常習でも、学校に行くことは安らぎでした。教科書を聞いたことに満足する状態で、勉強の余裕など無いまま、先生方のご援助で高卒の資格を頂きましたが、大学へ進んだ同級生も少なくありません。会った時に誰か亡くなったと聞きますがクラス会は楽しみです。

母校の先生となった高木茂男さんの推薦で同窓会に関わり、深いご縁が続きました。百周年記念式典にも参加できたことに感謝いたします。生まれた時から動乱の中にあつた昭和。平和を満喫できる若い人達には、勉強を重ねてほしいと思います。同窓会が益々発展されるよう祈念しております。

平成25年度総会

平成25年8月25日、オークラアカデミアパークホテルにて、同窓会創設百周年記念総会が開催された。

参加204名

総会 次第

- 一 開会の言葉
- 二 会長挨拶
- 三 校長挨拶
- 四 議事

- 1 平成24年度事業報告
- 決算報告 会計監査報告
- 2 平成25年度事業報告案
- 予算案

- 3 役員改選
- 4 その他

- 五 新役員紹介
- 六 前会長挨拶

- 七 同窓会創設百周年を記念して
- 1 同窓会百周年のあゆみ上映
- 2 展示物・「同窓会創設百周年に寄せて」の案内
- 3 木更津東高等学校曲部による記念演奏

- 4 花東贈呈
- 七 閉会の言葉

羽山同窓会長は「百年の歴史を踏まえ、新たなステップを踏み出し、21世紀のビジョンを明らかにしていきたい」と挨拶の中で述べた。

1・2号議案は承認。嶋野校内幹事長より役員改選の報告があり、鹿島会長の就任が承認され、会則に則り、新会

長より竹山常任理事が副会長に委嘱され承認。新役員の紹介と前会長の挨拶の後、前会長には花東が贈呈された。

その後、同窓

会創設百周年記念として、歴史の重みと伝統が感じられるDVDの上映と、東高専曲部の記念演奏があり、初々しい生徒たちの演奏に、会場は雅な雰囲気になった。



最後に同窓会活動にご尽力下さった石川富子、石井喜美代元同窓会長、金

澤範子元東京支部長に花東が贈呈され百周年に相応しく、厳かで華やかな雰囲気の中に、総会は無事終了した。

同窓会創設百周年

「縁を繋ぐ」

平成25年度東高同窓会・懇親会は、8月25日にオークラアカデミアパークホテルにて204名の参加の下開催されました。遠方から足を運んで下さった方々は大変でしたが、前日までのうたような暑さの後乾ききった大地を潤す雨が降り、過ごし易い一日でした。開会の言葉、黙祷の後、ピアノ伴奏で校歌2曲が歌われ、二部合唱の美しい響きが会場を満たしました。鹿島典

子新会長と御来賓の石井喜美代先生に御挨拶を頂きました。同窓会創設百周年の歩みを振り返り、その重さを感じられるお話でした。その後、鈴木六郎先生の御発声による乾杯でなごやかに宴が始まりました。

おいしい食事を頂きながら久々の再会で話が花が咲きました。アトラクションでは、私たち同期生のお嬢さん、榎本愛さんによるソプラノ独唱、ブッチー二の「私のお父さま」他1曲を堪能しました。続いて伴奏者である鈴木希実さんが「子犬のワルツ」をピアノソロで披露してくれました。最後は、参加者全員による「花は咲く」と「学生時代」の二部合唱で皆様の声の響きが重なり合い、とてもすばらしいものでした。あっという間に2時間余りが過ぎてしまいました。



同窓会を実施するまでの間、幹事会を通して私達25回生に繋がりが深まりました。また参加を呼びかけた26回生、相談した24回生や本部の方々、更に当日参加された多くの皆様と知り合い、繋がりをもちることができました。これも同窓会が皆様の御協力のもと、とぎれることなく続いていくからこそと改めて百周年の重さを感じました。更にこの関係が「縁を繋ぐ」のテーマ通り来年に繋がることを願います。

当番幹事代表 小幡 智子 高25回

平成24年度木更津東高等学校同窓会決算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

一 収入の部

科目	予算額	決算額	増減	付記
1 雑収入	2894,256	2894,256	0	
2 会費	487,200	487,200	0	194名(会)41名(祝)
3 雑収入	1,000	422	△578	利息
合計	3,382,456	3,381,878	△578	

二 支出の部

科目	予算額	決算額	予算外額	決算額	増減	付記
1 会費	30,000	0	30,000	17,028	△12,972	理事会、総会
2 事務費	80,000	0	80,000	68,894	△11,106	通信費等
3 雑費	80,000	0	80,000	3,000	△77,000	
4 図書費	25,000	0	25,000	0	△25,000	
5 雑費	250,000	0	250,000	181,439	△68,561	卒業記念品等
6 広報費	80,000	0	80,000	73,290	△6,710	
7 雑費	1,500,000	0	1,500,000	1,500,000	0	
8 雑費	5,000	0	5,000	0	△5,000	
9 雑費	35,000	0	35,000	0	△35,000	
小計	2,100,000	0	2,100,000	1,843,641	△256,359	
雑収入	1,082,456	0	1,082,456	0	△1,082,456	
合計	3,182,456	0	3,182,456	1,843,641	△1,338,815	

三 収支差額

雑収入	3,381,878円
雑支出	1,843,641円
収支差額	1,538,237円(決算繰越金)

平成24年度木更津東高等学校同窓会積立金会計決算書

単位：円

科目	平成24年度末残高	増減	振替科目	支出額	平成24年度末残高
基本会費	2,000,000	2,000,000	0	0	2,000,000

上記のとおり決算報告書を提出いたします。
平成25年5月13日

監査の結果適正であると認めます。
平成25年5月13日

同窓会長	嶋子	印
会計監査	文木 順子	印
会計監査	安房 恵	印

この人

「激動の青春」
を生きて田宮美子さん
本34回生

私達の木更津高女時代は、既に半世紀以上も前の遠い過去の思い出になってしまった。若き日の思い出は、通常誰もが感傷的なほど甘酸っぱく懐かしいものでありたいと願う。

しかし、図らずも私達が遭遇してしまつた「激動の青春」に纏わる数々の思い出には、何時も、重苦しい感傷と辛い別離の涙とが、幾層もの雲のように纏わり付いて離れない。

あの昼夜を別たぬ激しい空襲と艦載機の機銃掃射を、互いに手を握り合つて潜り抜け、只菅国のために明日の平和を信じ、徹夜で特攻機を修理し続けた16歳の動員女学生達。地下工場の窟で敗戦の大詔に泣き、命を共にした同僚とも別れて荒廃した母校へ帰つた。

戦時中、身辺から沢山の人々を戦場へ送り出し、その多くの人々が再び還らなかつた。また動員中の激務と戦後社会の激変が若い心身を脅かし、相次いで数名の級友を失つた。私達は、今この数々の悲しい思い出としっかりと向き合つて、立ち直るべき時であらう。

平和と繁栄に慣れ切つた人々は過去の苦難の日々を忘れ去りたいと願つてゐるようだ。しかし平和と繁栄の中で生まれ育つた世代が殆どとなつた今日だからこそ、個人の一時的な感情の衝動さえもが原因で世界中が戦火へ突入し兼ねない危うさを想う時、自国の悲

しい過去を知る私達のはつきりと語り継ぐべきことがあるのではなからうか。

私達が、本来は身も心も伸び々と成長すべきであつた若き日々、日本は戦場だつた。急激な戦況の悪化に伴い、昼夜頭上を襲う艦載機の爆音と機銃掃射、死への恐怖と絶望感、でも将来の平和を信じ、自国の防衛のため地下工場の日々特攻機の修理に力の限り働いた。「特攻機全機目標突入」の無様に、特攻機搭乗の兄等に対する追悼の涙が止まらなかつた。

過酷な戦場から還らぬ人々は数知れず、涙で心に深く刻み込んだ情景は日々数限り無い。戦争の悲惨さは、半世紀以上を経た今でも、老いた私達の心に深く鋭い棘を残している。

自らは決して望まぬこと乍ら、自国と国民を救うために己の生命を捨てざるを得なかつた戦時中の悲惨な運命は消失した。そして今、自らの生命も他人の生命も故意に損する事なく互いに傷つけ合う事もなく、それぞれが自分の人生を精一杯に生き抜く事は可能である。この幸せをしつかりと自覚して、己の一生は己の力で、理想に向けて努力すべきであらう。

その自由こそが、戦争のない「平和な世界」が我々に与えた最大の恩恵であり、我々がこの世界で生きる限り、決して失つてはならない自覚であり、決意でなければならぬ。

田宮さんは東京大学で工学博士号を取得され、現在も東京電機大学で学生の指導に当たられています。

師の
近況

- ① 教科
② 現住所
③ 勤続年数
④ 現在



石井 喜美代 先生

- ① 社会科 ② 君津市
③ 25年から39年間
④ 糖尿病との付き合い

木更津東高女百周年記念式典2010年(平成22)を終えた翌年、同窓会長を辞任した。この頃より20年来の糖尿病が悪化し、余病も出て来たので薬だけにたよらず食事、運動などに目を向け、野菜作りにも手を出している。又テレビでの歴史ものは見のがさず、図書館も近くにあるので利用している。趣味として古文書の解説に参加し、ボケ防止になれば...と思つている。



町田 義昭 先生

- ① 物理
② 長生郡一宮町
③ 47年から2年間

④ 東高はわずか2年でしたが、大変お世話になりました。当時のクラスの皆さんもそれぞれ船を重ね、定期的に開かれるクラス会で聴く近況報告が楽しみの一つになっています。県立船橋の校長を最後に退職、JST(独立行政法人科学技術振興機構)に7年間通い、現在は地元の一宮町教育委員会教育長として、日々変化する社会状況の中で義務教育等の様々な改善に向けて微力ながら努力しています。皆さんの益々のご活躍をご期待申し上げます。

会員名簿発行

木更津東高女学校創立百周年・定時制併置六十周年・同窓会創設百周年記念の会員名簿が、平成25年12月に発行されました。全日制・定時制合同の名簿は今回初めてで画期的な試みでもあり、大変有意義なことと思います。

名簿をひととくたびに懐しい高校時代がよみ返り、同窓生の交流にも役立つでしょう。その趣旨以外の第三者に情報が流れないよう十分な御配慮をお願いいたします。



同窓会総会

懇親会へのお誘い

日時 平成26年8月24日(日)

会場 ロイヤルヒルズ 10時より受付

木更津ビューホテル

0438(23)0211

木更津駅西口より

無料送迎バスあり

懇親会会費 7500円

当番幹事 高26回生一同

在校生の活動

「全 日 制」

軽音楽部

全日本ファイナル出場！

全国4599組の

頂点への挑戦！

顧問 木戸 孝一郎

「軽音楽部」と言えば、少し前までは、「部活」とは名ばかりの、生徒が好きなバンドを組んで、好きなバンドの曲を演奏しているお気楽な部活」と思われていました。

ところがここ数年、昨今の「軽音楽部」もあってか、入部してくる生徒は、その動機が今まではちよつと違っていて、「ギターがうまくなりたい」とか、「友達とバンドを組んで、自分たちの思いをみんなに訴えたい」とか、それぞれ目的意識をしっかりと持っているように見えます。

中でも2年生バンドの「木更津メーメーズ」は、もう一つの2年生バンド「バスターズナッチ」と共に、格好やファッションではなく、純粋に自分たちの好きな音楽を楽しんでいるようなバンド・ロックのバンドでした。

そこで、軽音楽部としては初めて外部の評価を受けることにして、千葉県高校軽音楽連盟主催の「軽音楽コンテスト」に出場しました。木更津の貸スタジオで録音した音源を送っただけでしたが、第一次審査をパスし、結果はベスト16！これで自信をつけたのでし

ようか、両バンドとも東高軽音部を代表しているという自覚が生まれ、今まで以上に真面目に練習に取り組むようになっていきました。

特に「木更津メーメーズ」は、顧問も知らない間に、23歳以下のアマチュアバンドが出場する大会、「ヤマハ・ミュージックレボリューション」(過去には、中島みゆきや長瀬剛も出場しました)にエントリーしていました。地区大会、関東大会と、あれよあれよという間に東日本大会を突破し、1月には渋谷で行われる「全日本ファイナル」に出場するまでになりました。

この全日本ファイナルは、参加した4599組のバンドのトップを決める大会でしたから、軽音楽をやっている生徒にとつて、甲子園出場にも等しいものでした。この「メーメーズ」の快挙に、学校では急遽応援バスツアーが組まれ、1月12日、生徒約50名が渋谷AXまで応援に駆けつけました。

出場したバンドのほとんどが社会人や大学生のセミプロ、あるいは中高一貫の私立高校生という中で、惜しくも入賞は逃しましたが、オリジナル曲「明日休みな気がする」を思いっきり熱く演奏した彼女たちは、大いに輝いていました。

また一つ、東高の伝統に新たなベリが加わったような気がしました。



芸術鑑賞会

11月21日(木)、木更津市民会館大ホールにて芸術鑑賞会が開かれました。生徒の情操の育成を図り、在籍中に音楽・古典芸能・観劇を1回ずつ鑑賞できるように企画されています。

今年度は、フジテレビの青春アカベラ甲子園ハモネブリで全国優勝した「ジャーンズQ」です。北海道出身の5人組のアカベラコーラスグループで、ライブコンサートやイベントの他、東日本大震災のボランティアや被災地でのライブ支援を精力的に行っています。楽器を一切使わないボイスパーカッションにも興味を持ちました。

東高音楽部も昨年の音楽祭で無伴奏で八木節を合唱しました。芸術鑑賞会では、音楽部とジャーンズQのコラボレーションが実現しました。



第一部は最近流行したカバー曲と音楽部とのコラボレーションを、第二部はジャーンズQのオリジナル曲を鑑賞しました。素晴らしいハーモニーの他、トークでは自らの高校時代を振り返り、悩ましい生徒らに伝える応援メッセージや、震災直後の被災者は笑うことや歌うことも憚られていたということ、家や肉親を亡くして傷ついた心を歌で癒してもらったための活動など感動する話も聞くことができました。

図書館の活用

最近発表された「学校読書調査」が高校生の読書離れを懸念している。本校生徒においても世間通り読書の貸し出し数は年々減少している。

だが、各市町村に図書館が配備され、コンピュータやスマートフォンによる電子書籍の普及など現代の高校生には必ずしも学校図書館を利用しなくとも読書をする機会は様々だ。

学校図書館の利用法も本の貸し出し以外に個人ブースで自習する生徒も多くいる。文芸部の生徒は放課後図書室で創作活動し、できた作品をコンテスト等に応募をしている。そのうち1年生の山口砂緒里さんは、旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」文芸一分野小説部門において応募数683本の中、見事旺文社赤尾好夫記念賞(銅賞)を受賞した。

図書委員は放課後のカウンター当番・「おすすめコーナー」や「授業お助けコーナー」を設け話題の本や授業に関連する本を展示・「BOOKS OF PRINCES」を発行し、本の紹介をしている。また切り絵教室・文化祭では読み聞かせなども開催している。

卒業後保育関係に進学する生徒も多く、3年生の「発達と保育」選択者の作った絵本は、市販されている本に負けない感性豊かなオリジナル作品となり図書館に展示された。

今後より多岐にわたり図書館が活用されていくことを期待する。

155名中内定138名

〔全日制 進路状況〕

平成26年2月20日現在

分類名	内定人数	主な合格・内定先
大 学	9	大妻女子大 亀田医療大 敬愛大 相模女子大 三育学園大 昭和女子大 東京成徳大 東京造形大 東洋大学
短 大	21	植草学園短大 昭和学院短大 聖徳大学短期 清和短期 千葉敬愛短大 千葉経済短期 千葉明徳短大 戸板女子短大 東京女子体育短大 武蔵丘短大
専門 医 療	19	安房医療福祉専門 君津中央病院附属看護専門 山王看護専門 首都医校 千葉医療センター附属看護専門 千葉中央看護専門 千葉医療福祉専門 鶴舞看護専門 東京医学校術専門 東京歯科衛生専門 東京歯科大附属歯科衛生士専門 木更津看護学院
一 般	43	ちば愛犬動物フラワー 東京コミュニケーションアート アイエスティティク 資生堂美容技術 東京文化美容 東洋理美容 ぱり総合美容 山野美容 千葉調理師 東京聖栄大附属調理師 東京服飾 華服飾 文化服装学院 神田外語学院 中央介護福祉 日本外国語 国際トラベルホテルブライダル 千葉医療秘書こども 千葉情報経理 東京IT会計法律 東京スクールオブミュージック 千葉デザイナー学院 日本デザイナー学院 など
就 職	46	オリックスゴルフ 尾張屋 カスヤ精工 勝浦ホテル三日月 加藤病院 亀田総合病院 川島コーポレーション 木更津ゴルフ倶楽部 木更津ビューホテル 木更津病院 君津市農協 ケイワイコーポレーション 玄々堂君津病院 健老会 小湊鐵道 G7オートサービス 関東 新日鉄住金 生協コープみらい セントケア千葉 津田屋 東京高圧山崎 富分 にしけい東京支社 ニッカ 日鉄住金ビジネスサービス千葉 荻原病院 東日本ツアーズ 日の丸自動車興業 ホテルマルエイ マルサン重機建設 葉王 葉丸病院 など
公 務 員	1	木更津市役所

〔大学・短大〕

昨年と比較し、四大進学希望者の割合が減少した。短大希望は例年並みの人数であった。四大、短大とも推薦入試やAO入試で受験する者が殆どである。

〔医療系専門学校〕

医療看護系の専門学校進学希望者は20名前後で、看護師、歯科衛生士、理学・作業療法士など希望は様々である。看護学校は難易度が高く、合格するにはかなりの学力が必要とされる。

〔一般の専門学校〕

推薦入試やAO入試で受験する者が多く、難易度は高くない。それだけに目的意識の確かさが必要である。分野としては、理美容・調理・介護・実務・芸術と多様である。

〔公務員の就職〕

公務員希望者は少数であった。依然、公務員人気は高く、合格するにはかなりの学力が求められる。

〔企業の就職〕

昨年に比べ、求人数はやや増加した感じはするが、女子の就職は依然として厳しい状況である。希望の多い事務・販売といった職種は求人数が少なく、競争が激しい。自分の適性、能力を客観的に把握すること。また、それを自分の希望とイかにマッチングさせるかが喫緊の課題と思われる。

4色で競い合う体育祭

嶋野 文江

本校は本年度で全学年が4クラスになった。小規模校での行事は盛り上がり欠ける、という声も耳にするが、本校に限ってそういう話はあてはまらない。

昨年度までは3色だった体育祭も今年は1組から4組まで学年縦割り4色でやることになった。これは体育委員会が話し合いがもたれ、特に家政科は「科」としてまとまりたい、という生徒からの強い要望があったと聞く。

体育祭は各色の趣向を凝らした応援合戦がハイライトである。3年生中心に踊りや歌のパフォーマンスが繰り広げられる。白組は「ももクロ」旋風で衣装にも気合いが入り、黄色組は華やかなダンスで見る者の目を奪う。赤は応援団のパフォーマンスがカッコよく決まり、青はオーソドックスな応援で団結力を見せてくれた。どの色も素晴らしい出来映えで優秀付け難く、審査員は困ったことと思う。

普段教室では見られない生き生きとした生徒達の顔が見られたこと、そして来賓の同窓会の方から「どの色も大きな声で応援歌を歌っていて気持ち良かったわ。」の一言がとても嬉しかった。



母校の先輩から平和を学ぶ

3学年主任 嶋野 文江

東日本大震災直後に入学した生徒達ももう卒業である。その間、授業や特別活動を通して数多くのことを学んできたことと思うが、特に忘れてほしくないことがある。それは「平和の尊さ」である。

2年の修学旅行では沖縄戦について学び、戦争の恐ろしさを心に刻んだ。3年の英語の「ハンナの靴」という教材からはホロコーストについて学び、戦争がどこまで人間の尊厳を損なうか知った。

3年の12月の学年集会で戦時下の学生時代を伝える本科34回生製作のDVD「激動の青春」を見せた。こちらの不手際で当日音声が出ず画面だけを見せることになった。製作中心者でナレーターでもある田宮壽美子さんの紹介を含め、いくつか補足説明した。

木更津高等女学校の4年間はほとんど戦争中で、特に最後の年は学徒動員で全くと言っていいほど学べなかった本科34回生の方々。生徒は自分達の先輩が自分達よりも若い年齢で「お国の為に」一生懸命働き、地下工場で特攻機の修理をしていたことに驚き、戦争はドイツや沖縄などの彼の地の出来事ではなく、この地にもあったということ、今自分がこの地で平和に学べていることのありがたさ、等さまざなことに思いを巡らせていた。

平和への思いを大先輩から受け継いで彼女たちは果立っていく。

〔一定時制〕

伊江島民泊体験を

実施して

三年次学年主任 中谷 康則

本年度定時制では初めての試みとして修学旅行(11月17日、20日)で民泊体験研修を一泊二日の日程で実施しました。生徒たちは受け入れ先の民家の方々とうまく打ち解けることができたろうか、体調を崩したりはしないだろうか、体調を崩したりはしないだろうか、旅行業者との折衝を重ね実施し、案ずるより産むが易しでした。生徒は思いの外受け入れ民家の方に馴染み、伊江島を離れる時には普段やんちゃで元気な生徒も目に涙を浮かべて別れを惜しんでいました。事後のアンケートでも、旅行中に最も印象的な体験としてあげ、参加した生徒全員が良かった。まあまあ良かったと回答しています。今度はプライベートの旅行でお世話になった民家を訪れたいと話している生徒もいます。ゲームやメール、ラインなどバーチャルなコミュニケーションが多くなっている生徒たちにとつて、南国の大きな心風の中で地元の人だちとのふれ合いは心の大きな財産になったようです。



伊江島での民泊を

体験して

三年A組 嶋野 天丸

僕は、修学旅行の一環として沖縄県の本部港からフェリーで約30分行った所にある伊江島で民泊体験をしました。

僕自身、人見知りをしてしまうので、「なに話すの?」「退屈になるんだろ」

うな」とか不安でしたがありませんでした。しかし伊江島に着くと、入村式でなぜか踊らされ、とても恥ずかしかったけれど友達の友達のか良い経験になりました。その甲斐があり、妙な緊張もなくなり民泊先の方ともすんなりと会話ができました。

僕らの民泊先での体験内容には、クワフト体験、郷土料理があったのですが、おつかあ(民泊先の方で母という意味)が「いいって座ってゆつくりしなさい」と企画倒しで沖繩らしい発言でした。初めの不安が嘘のように、時間の経過が早く感じました。卓球や、夜中におつかあを囲んでココアを飲みながら日頃の愚痴をこぼしたりもしました。誰よりも先に寝た友達をいじり倒したりトランプで遊んだりしました。翌日、昨晚も行った島の中央にある山や真っ白なビーチに行きました。昼食を食べに家に戻り、食後集合時間が近



づいているにも関わらず、アホが(僕です)「ビーチにデジカメ忘れた!!」と言いきりで取りに行き、アイス屋さんで預かってくれて助かりました。(笑)集合時間に間に合い、離村式後、自由時間でみんな釣りもしました。港を出る際、おつかあが来ていて少し寂しい思いになりました。いつかまた個人的にも行く事を決意しました。本当に良かったです。

絵画の寄贈



「古都 (ローテンブルク)」

平成25年7月、本校定時制卒業生の岩壁せつ子(定6普)さんより絵画「古都(ローテンブルク)」が寄贈されました。岩壁さんは、以前20年ほど同窓会の役員を務められ、今回の同窓会創立百周年を知り、自分のできることで記念になることはないかと考えられこの作品を寄贈されました。

岩壁さんが本格的に絵を描き始めたのは、40年ほど前の教員時代に長期研修で絵画を学んだ時だそうで、以後はほとんど独学で描き続けていらつしやうです。現在は千葉県美術会会員で県展にも出品されています。

寄贈された作品は現在正心ホールに展示されています。

部活動

全国定通体育大会

陸上競技部

東京国立競技場で開催された全国高等学校定通体育大会陸上競技の部において磯貝千春さん(1年)は女子走り高跳びに出場し決勝に進出、全国4位に入賞しました。矢作宗幸君(4年)は男子三段跳びと400mHに、山田慶君(4年)は男子三段跳びに、高橋紀之君(4年)は男子砲丸投げにそれぞれ出場しました。3選手とも決勝進出は逃しましたが強豪選手を相手にがんばりました。



〔定時制 進路状況報告〕

進路指導主事 岩崎 康行

進路未決定者の内数名の者は現在、仕事に従事しており現職継続者になる可能性がある。進学未決定者は入試等を控えている。 26年2月20日現在

進学者	大学	0名
	短大	1名
	専門	6名
就職者		9名
現職継続者		9名
家事手伝い		0名
進学未決定者		2名
就職未決定者		6名
未定		6名

会員のひろば

同窓会・クラス会だより

瞳を永久に輝かん

昭和34年に卒業した私達も73歳を迎えている。3年2組の時校内音楽コンクールがスタートし、第1回の優勝組となった。そして、古稀を前に再びOGとして42回のコンクールに当時歌った「荒城の月」を披露した。

やりたい事に向かっている団結力は、今年のクラス会(紫陽会)が43回目を重ねている事につながっていると思う。卒業して55年の間各人が精一杯生き、喜びも悲しみも乗り越えて笑顔で集まられた幸せに感謝している。家の事、仕事の事、健康の事、ボランティアの事等々話はずきない。みんな一言ずつ報告し合った。芸達者もいて三味線、唄方、踊りの師匠を中心に全員輪になって踊った。楽しげで輝いていた。

この姿を見て校歌の3番の歌詞「瞳ぞ永久に輝かん」を思い出した。作詞者の隆高鑑校長先生が当時朝会で「仏様には後光がある。人間の後光は何か」と問われた事とも重なった。瞳は心の窓。生き生きと希望に満ちた心が瞳を輝かせ、人間の後光につながるのではないかと仲間の姿を見て考えた。校長先生なら何とおっしゃるでしょうか。

人生の大事な時期にたくさん先生方や友達に恵まれ改めて感謝している。仲間の皆さん、瞳を輝かせて次会も元気に会いましょう。伊藤 淑江 高11回

私の近況

支え合いの輪

平成3年11月に有志により、できる人が、できることをして支え合おうと在宅ケアを考える会を立ち上げました。福祉に関する研修会と並行し、在宅のお手伝い「ユーアイやちよ」の有償、無償のサービスが、平成4年4月からスタートしました。このサービスは、自分自身が安心できる在宅生活が目標で、受け手の立場になった時に、望まれる担い手の姿でなければなりません。平成12年から制度事業の介護保険、15年からは障害者の福祉サービス事業所として参入しました。事業拡大もない事業所では、制度外の有償サービスやボランティア活動の運営費もまかなっています。

八千代市内に広がった「ユーアイやちよ」の輪のミニデイスサービス、ふれあいサロン7箇所は、年間約7000人が参加し八千代市の受託事業となっています。住民の立場で地域に発信し、今後同じ想いをもつ地域福祉の充実を、願う人達と共に考え、安心して住み続ける地域にしていきたいものです。

鈴木 静江 高5回

投稿規程

- 1 原稿はお返ししません。
 - 2 紙面の都合上、やむを得ず文の一部を割愛することもあります。
 - 3 原稿料はありません。
- 会員の皆さんの近況などもお寄せください。お待ちしております。

平成25年度・26年度

役員紹介

会長	鹿島 典子 高12回
副会長・会計	竹山 良江 高19回
副会長	加藤 容子 高20回
会計監査	立木 絹子 高15回
会計監査	金井 恵 高14回
常任理事	武田とし子 高19回
常任理事	相川 利枝 高22回
常任理事	高橋めぐみ 高22回
常任理事	室前 恵子 高22回
常任理事	上條 祐美 高28回
顧問	羽山 順子 高9回
顧問	青木 清隆 高30回
校内幹事	嶋野 文江 高31回
校内幹事	瀬戸 佳子 高34回
校内幹事	村上 幸枝 高34回
校内幹事	中谷 康則 高34回

俳壇

草むしる祖母より受けし太き指
曼珠沙華女ばかりの五人旅
蜚草静ひて知る絆かな

堀口 節子 高12回

大空にあまねく光燕来る
五つ並んで富士仰ぐ夏帽子
鵬日和ありとあらゆる窓放つ

川俣 美子 高17回

冬木の芽母校の歴史百余年
せせらぎの音新緑の下の下
女子会はいつもの五人小鳥くる

編集後記

母校に続き、同窓会も昨年百周年を迎えました。記念総会では百年を振り返るDVDの上映や、筆曲部の生徒の記念演奏が行われました。

明治の世から百年、地域の女子教育を担ってきた母校は今、県内2校の公立女子高としてニーズに応じています。社会情勢が目まぐるしく移り変わる現代、百周年を一つの節目とし、脈々と受け継がれてきた伝統と同窓生の絆を、次世代へ譲り渡す役割の一端を同窓会も担っていきたいと思っています。

今年度、広報委員会には武田とし子さん、中谷康則先生が加わりました。ご寄稿頂いた皆様に、心よりお礼申し上げます。(上條)

